

資料1

第7回 FISIM 検討のポイント

1. 議題1 について (資料2)

(i) 「FISIM 参考試算値」の表章案について

(1) 12年基準改訂時に FISIM 試算値を参考試算値として公表する予定とされていることから、その具体的な表章案について検討。

(2) FISIMの試算値による影響をみる時の表示には2種類ある。使い分けについて。

(A タイプ)FISIM額の範囲での表示と、(B タイプ)FISIMを受け入れる計数側からの、受入前と受け入れ後の額や伸び率の比較をする表示(例えば前後のGDP比較)がある。

現行では金融部門の生産額は帰属利子方式で求め、FISIM方式では計数の変化が生ずるが、現行の増減率とFISIM方式による増減率との比較等が必要になる。なお違いについては資料3の「5帰属利子方式とFISIM方式の差」参照。

(3) 資料2での表章案は、(A タイプ) FISIM額を中心とした案である。

表章系列として、Aタイプ2系列を準備した。

- ① FISIM試算値による供給と需要への影響(名目)、(実質)、(デフレーター)
- ② FISIM試算値による「国内総支出」への影響(名目)、(実質)、(デフレーター)

(4) Bタイプ系列について。資料3の第I部参照。

- ① FISIM試算値による供給と需要(名目)、(実質)、(デフレーター)
- ② FISIM 試算値による「経済活動別国内総生産・要素所得」への影響(ここでは12年を例示(名目)(実質、デフレーターはタイプA)
- ③ FISIM試算値による「国内総支出」への影響(名目)、(実質)、(デフレーター)

(ii) FISIMの用語解説等の表現について

- (1) 「FISIM 表の説明」について
- (2) 用語「FISIM の解説」について

(iii) 「資料2-参考1-FISIM推計の基本的方向」は前回委員会の議論を踏まえて、

一部修正している。今回の推計はこの基本的方向に沿って推計している。
前回の議論を踏まえた検討の概要報告。

2. 議題2について（資料4）

今後のFISIM検討スケジュールについて。試算値の問題点や表章に向けての検討。課題への今後の取り組み方の検討

(1) 公表(年報)に向けての計数修正等

(計数や表章の詳細箇所に関する意見は 11 月中に事務局まで。)

(2) 課題について

① 80年代の参照利子率等

② SNA 本体系への導入のために必要なこと。

(3) 今後の課題への取り組み方についての案の検討

次回委員会は4月以降。

ただし検討課題については、懇談会形式での対応等に取り組む。

(以上)